

2022年12月8日(木)
水俣学講義・熊本学園大

「水俣市職員として水俣病にどうかかわったのか」

元水俣市職員 川野 恵治

1. 講義のポイント

- ・市役所でどんな仕事に携わってきたか
- ・水俣病や水俣病問題との関わり
- ・その関わりを通じてどのようなことを学んだか
- ・自分の人生や生き方にどんな影響を与えたか

2. 講義の骨子

- (1) 学生時代（ごく簡単に振り返ると）
ハンセン病との出会い 福祉ボランティア活動 障害者福祉を学ぶ
- (2) 水俣市役所に就職（1982年）
中途半端な公務員 最初の5年間は悶々鬱々と
- (3) 転機は県への2度の派遣研修（1987年、1991～1993年）
県庁派遣研修 銀座熊本館にも勤務 公務員らしく「外部の目」を持つ
- (4) 環境創造みなまた推進事業（1994～1998年）
水俣病問題に真正面から向き合う 様々な人々との出会い エピソード
- (5) 国際交流・姉妹都市交流事業（1995～1999年）
異文化交流の大切さ 違いを知って理解する
- (6) 産業廃棄物処分場問題（2006～2008年）
市民一丸となった闘い 理論武装と市民の力 支援者と水俣病の教訓
- (7) 環境モデル都市と環境首都（2008～2011年3月）
「環境モデル都市づくり」と地球温暖化対策 日本の環境首都に
- (8) 市役所時代を振り返ってみれば
新しく挑戦的、重要かつ貴重な仕事 携わった仕事の経験は誇りに
- (9) 自分の人生や生き方にどんな影響を与えたか
多様性ということ 違いを認め、一緒にできることを探す
失ったものは二度と取り戻せない